

シミュレーションのもともとの意味は「ふりをする」「まねをする」ことで、模型を使用した実験などもその範ちゆうに含まれるそうですが、今日でシミュレーションと聞けば、ほぼ「計算機シミュレーション」または「数値シミュレーション」を指すのではないのでしょうか。

計算機の性能が著しく進歩したこともあって数値シミュレーションが身近になり、さまざまな分野、目的で利用が進んでいます。一方で数値シミュレーションを行うには、対象とする物体の特性や現象を数式で表す必要があり、またその計算結果が

妥当かどうかを知るためにも、実現象をよく知る必要があるといえます。シミュレーション技術と実験やフィールドでの実現象把握はお互いに欠かせない存在であり、好循環を生み出すために今後も連携していくことが重要だと考えます。

さて、来月号の特集では「鉄道構造物の地震時の安全性を高める技術」をお届けします。たびたび見舞われる大地震を教訓に、鉄道構造物のさらなる安全性向上を目指して鉄道総研が取り組む研究開発の一部をご紹介します。どうぞご期待ください。(S. N.)